

編集後記

本号の特集では「CUCのオンライン授業」と題して春学期の授業を振り返ってもらったが、私自身も春学期は朝から晩まで授業の準備と事後処理に明け暮れる毎日だった。オンライン授業といっても形態は様々であり、私の場合、少人数で行うゼミと大学院の授業はMicrosoft Teamsのビデオ会議機能を用いて実施する一方、学部の講義科目はCUC PORTALとTeamsで資料を配信し、それを読んで確認テスト（Microsoft Formsで作成）に回答してもらうという形式で行った。

ゼミナールで特に印象深かったのは、留学生の卒論指導である。政策情報学部には秋学期から3年次編入してくる上海立信会計金融学院出身の留学生がいるが、彼らは4年生の春学期に卒論を書いて卒業する。そのような学生が私のゼミには4名いたが、そのうち3名は中国に一時帰国したまま日本に戻ってくることができず、中国（3名の留学生の自宅）と日本（1名の留学生のアパートと私の自宅）をオンラインで結んでのゼミとなった。接続テストを終え、みんなが元気であることと、画面共有でプレゼンテーションがうまくいくことを確認してからは、普段のゼミとはあまり変わることはない指導が続いた。これまでとの最大の違いは授業時間外の個別指導にもビデオ会議を活用したことである。その手軽さから個別指導の頻度も増え、おかげで忙しさにも拍車がかかったが、気が付けばこれまでの先輩たちと比較しても遜色のない論文に仕上がった。

秋学期はゼミを中心に一部の授業で対面方式が再開されているが、遠隔での受講を希望する学生にも配慮し、大学の教室と学生の自宅をオンラインでつなぐ授業も多い。技術的には可能でもなかなかそこまではできない、と思われていたことが次々と実践されており、今後の選択肢の広がり期待したいところである。

千葉商科大学政策情報学部教授 経済研究所長

小林 航